岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

FIELD SCIENCE NEWS

FS NEWS
No.29
October/05/2017

森林インターンシップ　－ 技術職員と学ぶ実践的就業体験 －実施報告

循環型森林管理技術分野　技術専門職員　濱道 寿幸

8月21−25日の5日間、滝沢演習林と御明神演習林において「森林インターンシップ －技術職員と学ぶ実践的就業体験－」を開講しました。このインターンシップは全国の大学の森林・林業技術者としての就業に意欲ある3年次生以上を対象としたもので、今回は6大学から7名の参加がありました。

カリキュラムは、演習林内の立木の材積計測を行い収穫予想し、実際に伐倒、玉切り、運材、椪積み、検知を行い、収益を計算するという林業の木材生産作業を実践的に体験できる内容となっています。このほかにも森林や緑地、公園などの管理に必要な植生の調査方法や、枯木、枯れ枝の処理方法、森林資源を利用するための炭焼きや薪割り体験などが用意されています。期間中、悪天候の日が多く、残念ながら実施できなかった、または短縮となった内容もありました。

滝沢演習林での作業のメインは、ハーベスタ、グラップル、フォワーダなど大型林業機械を使った木材生産でした。このような大型林業機械は木材生産の現場になくてはならないものとなっていますが、学生は知識としては知っていても、実際に見たり直接操作したりする機会は少なく、中には初めて機械に触る学生もいました。今回の長時間の操作体験は、受講生にとって貴重な経験になったことと思います。このような実践的な体験ができる研修は、大型林業機械とオペレーターが充実している岩手大学の演習林ならではのものといえます。

今回は木材生産作業がメインとなりましたが、受講生達は、収穫した丸太がその後どのように木材になりどのような経路をたどって利用されていくのかという流通や、どのように木を育てるのかという育林にも関心が向いたようです。

このインターンシップでの経験が、林業技術者への道を一歩踏み出すきっかけにつながるとともに、林業技術者として活躍する小さな糧になれば幸いです。

めざすは30年？「レストランKenji」開店3か月企画

持続型農業生産技術分野長　教授　由比　進

8月9日に岩手大学「レストランKenji」において、学内の生産物をふんだんに取り入れた開店3か月企画食事会が催されました。中央食堂の階段を上がると、滝沢・御明神演習林が制作に加わった木の看板が掲げられた入り口です。広い店内のテーブルには、御明神牧場のサーロイン・ヒレ・モモ・スジの牛肉が、滝沢農場の茶豆・黒千石豆・ジャガイモ・岩大味噌・クッキングトマト・ブルーベリーが、さらに三陸復興・地域創生推進機構（園芸振興班）が学内で試験栽培しているミニカリフラワー「姫かりふ®」が、園芸振興班の技術支援のもと岩泉町で生産された夏イチゴが、腕によりをかけた中村シェフの料理となって並んでいます。地元産のビール、日本酒などの飲み物とともに、しばし料理と歓談の夏の宵を楽しみました。

学内においては、FSCとは何をするところか、どんなものを生産しているのか、あまり知られていないでしょう。そんな中、胃袋鷲掴み（？）のこのイベントは、開店して間もないレストランだけでなく、FSCのことを理解していただくのにも絶好の機会でした。大皿いっぱいに盛られたブルーベリーを持ってテーブルを回ったところ、そこかしこで大きさとおいしさとに感嘆の声が上がりました。また、ほどよい硬さの肉料理は、噛むほどに味わい深く、瞬く間に参加者のお腹の中に消えていきました。普段あまり目を向けられない食材であるクッキングトマトやカリフラワーについても、皆さんそのおいしさに気づいてくださったことでしょう。

これからもFSC一同、レストランKenjiをひとつの発表の場ととらえて、食材の提供を含め多方面で協力しながら、開店30年をめざして盛り立てていきたいと考えています。

急げ、なくなる！農場・牧場の食材が並ぶ食卓

岩手ブルーベリーの会「夏期講習会」開催される

持続型農業生産技術分野　助教　渡邉　学

平成29年6月24日(土)に、岩手ブルーベリーの会「平成29年度夏期講習会」が開催されました。岩手ブルーベリーの会は、ブルーベリーの栽培、生産、加工、販売および消費に関わる者の相互の連携と理解を深め、岩手県のブルーベリー産業の振興に資することを目的に平成12年に発足しました。現在の会員数は、岩手県の方々を中心に約300名にもなります。

夏期講習会では、前半は岩手産業文化センターにおいて「ハイブッシュブルーベリーの基礎知識と栽培の実際」のテーマで筆者が講義しました。参加者はベテランの生産者や新規参入者、各県の普及指導員まで立場は様々でしたが、皆様には熱心に講義を聞いていただきました。後半は会場を本学滝沢農場ブルーベリー園に移し、筆者と村上政伸技術専門職員が早生品種を中心とした栽培特性や栽培技術について解説しました。参加者からは、日頃の栽培上の課題などについて質問がありました。同時に、滝沢農場のブルーベリー果実を利用した洋菓子3種の試食会もありました。夏期講習会には約160名の参加があり、その半数以上が青森県や宮城県など県外からの参加者でした。これまで岩手大学は、東北地域のブルーベリー栽培の普及、発展に大きく関わってきましたが、今回の夏期講習会において、地域のブルーベリー関係者の岩手大学に対する期待は益々高まっていることを実感しました。

今後も岩手県や東北地域のブルーベリー栽培の発展に貢献できるよう、ブルーベリーに関する研究成果等の情報発信を継続していく予定です。

ブルーベリー見本園での品種特性の解説

●新任職員の紹介

持続型農業生産技術分野　技術職員　田尻 和之

平成29年7月1日付で採用になりました御明神牧場の田尻和之と申します。

私の出身地は遠野市で遠野緑峰高校において畜産（肉牛）について学んだ後、岩手県立農業大学校に進学し、肉畜経営科で肉牛について学んでまいりました。その後、農林水産省の出先機関である独立行政法人 家畜改良センターの技術専門職員として宮崎牧場に配属され、5年間勤務してまいりました。宮崎牧場においては哺乳・子牛を3年、繁殖(成牛の飼養管理・人工授精)を1年、飼料生産業務を1年行ってまいりました。本年3月に一身上の都合（実家の農業のことや一人残した母のことが気がかりだったため)により宮崎牧場を退職することになり、約3か月間求職活動をしている中で、縁あって御明神牧場に採用されました。

現在、御明神牧場で第1牛舎(哺乳子牛)の飼養管理と飼料生産業務を担当しております。

宮崎牧場で培った経験を活かし、御明神牧場の業務の効率化・業績の向上をめざし微力ではありますが、御明神牧場の発展に貢献してまいる決意であります。

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター
〒020-8550　盛岡市上田3丁目18−8　TEL:019(621)6234
E-mail:fsciu@iwate-u.ac.jp　http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/~fsciu/
発行責任者／寒冷フィールドサイエンス教育研究センター長　澤口　勇雄
編集責任者／寒冷フィールドサイエンス教育研究センター　山本　信次